16世紀後半ヴェネツィアにおけるサン・カッシアーノ地区の 劇場建設と上演について

STUDY ON THE CONSTRUCTION AND THE PLAY OF TWO THEATERS IN THE PARISH OF SAN CASSIANO IN THE LATE 16th CENTURY VENICE

青木 香代子*

Kayoko AOKI

Two theaters for comedies built in the parish of San Cassiano, Venice in 1581 are studied in this paper by researching the manuscripts kept in the Archivio di Stato di Venezia. They are commonly known as one of the oldest theaters in Europe. However, because of lack of buildings and visual materials, it is still difficult to clarify their forms and the functions. In addition, the documents like the records of the Council of Ten do not give us sufficient information. In this study, the nobles who owned these theaters and actors are pointed out, then their purposes of the play and their roles as constructor are examined through the manuscripts to reveal the theatrical context of the late 16th century Venice

Keywords: Italy, Venice, Teatro Michiel, Teatro Tron, the parish of San Cassiano

イタリア, ヴェネツィア, テアトロ・ミキエル, テアトロ・トロン, サン・カッシアーノ地区

1 はじめに

1-1 研究の背景と目的

中世以降のイタリアでは、世俗的な祝祭における演劇は専用の施設を持たず、パラッツォ内の広間、中庭あるいは広場等に仮設の舞台や観客席を設えて催されてきたが、16世紀後半になると各地で一時的な使用を目的とするのではない多様な劇場建築が現れるようになる。その多くは為政者による政治活動として祝祭を演出するためにつくられ、単に演劇が展開する場であっただけではなく都市の文化・社会的背景を表象するものであった¹⁾。

一方ヴェネツィアでは、フランチェスコ・サンソヴィーノ²⁾が1582年に出版した『高貴かつ唯一の都市ヴェネツィア』と題した著名な案内書³⁾の中で、実に美しい2つの劇場があったことを記している。所有した貴族の名からテアトロ・ミキエル、テアトロ・トロンと呼ばれるこの2つの劇場は共にサン・カッシアーノ地区に位置し、ヴェネツィアにおいて常設の劇場として史料上に初めて登場するものである⁴⁾。またイタリア全体の中でも最初期に建設された劇場であつたと考えられているがその様態は未だほとんど明らかにされていない。

本研究は、イタリア各地で専用の劇場建築が誕生し始めた16世紀後半に着目し、その最も初期の例としてヴェネツィアのサン・カッシアーノ地区におけるこの2つの劇場を対象とする。劇場という新しい建築は、文化的・社会的な要求を包括し、様々な試行錯誤の結果成立したものである。サン・カッシアーノ地区に建設された2つの劇場は、定着したビルディング・タイプとして劇場が社会・文化の中に位置づけられる以前の萌芽的現象であるがゆえに、ヴェネツィアの社会・文化の特質を如実に映し出すものであつたのではと筆者は考えている。それが研究の動機である。

本研究の第一稿として、まずテアトロ・ミキエル、テアトロ・ト

ロンの建設と上演について劇場を所有した貴族と役者に着目し、その実態を分析し考察する。さらに次稿では、劇場のより具体的な形態と劇場が建設されたサン・カッシアーノ地区の特質について検証し、本稿とあわせて2つの劇場の様態を明らかにしていきたい。

1-2 既往の研究

16世紀のヴェネツィアにおける祝祭・演劇に関しては、多くの側面から論究されている。なかでも貴族団体コンパニア・デッラ・カルツァとその祝祭に関するL.ヴェントゥーリの研究(1909年)⁵⁾、L.P.ウルバンの研究(1966年)⁶⁾(1987年)⁷⁾、M.T.ムラーロの研究(1981年)⁸⁾等により少しずつ進展をみせている。しかし、いずれも社会史的観点から祝祭を論じたもので、そのための空間自体に関する考察は十分になされていない⁹⁾。

R.ジャツォットによる研究(1967年)¹⁰⁾は、多くの一次史料を使用し、主に劇場を建設・運営した貴族間の摩擦、劇場内でのボックス席の所有等に焦点を当てた優れた研究として評価できる。しかし、これは17・18世紀の劇場が対象とされている。より建築学的視座による研究であるL.ゾルツィらによる展覧会の図録(1971年)¹¹⁾、N.マンジーニの研究(1974年)¹²⁾は、他都市の劇場研究に比べ遅れをとっていたヴェネツィア劇場研究を大きく進展させるものであった。続いてF.マンチーニ、M.T.ムラーロ、E.ボヴォレードによりヴェネツィアに限らずヴェネト地方全体の劇場を対象にした研究(1996年)¹³⁾がまとめられたが、そのいずれも19世紀までにヴェネツィアに建設された15以上の劇場を紹介したもので、史料が比較的多く残されている17・18世紀に重点が置かれている。近年ではE.J.ジョンソンが16世紀後半のサン・カッシアーノ地区の劇場に関する研究(2002年)¹⁴⁾をまとめた。しかし、これは先行研究でも使用されてきた

* 東京芸術大学大学院美術研究科 博士後期課程 建築専攻 修士(芸術)

Doctoral Course (Architecture), Graduate School of Fine Arts, Tokyo National University of Fine Arts and Music, M. Fine Arts.

十人委員会に関する史料等を再読したうえで、開場時期に関して有力な説を提示したにとどまっている。以上のように、17世紀以前の劇場建設と上演を組織した主体という観点からサン・カッシャーノ地区の劇場の様態を考察する研究は未だに着手されていない。

1-3 史料

サン・カッシャーノ地区の2つの劇場はいずれも現存せず、さらに都市内にその遺構もみられない。また図面・絵画などの図像史料も18世紀におこなわれたテアトロ・トロンの2度目の再建以前のもは現在まで残されていない¹⁵。以上から建築物ならびに図像による証拠を用いた研究によって16世紀後半の建設当時の様態を明らかにすることは不可能であり、現存する文書における当時の記述から検証しなければならない。

多岐に渡る職権を有していた元老院 *Senato* では、都市の中でも比較的重要な建設について討議した事例が稀にあるが、その議事録 *registro* や下書き *filza* の中に劇場に関わる記録は見られない¹⁶。さらにその執行機関であるコッレージョ *Collegio* でも取り扱われていない。また当時は新しい建築の計画または用途の変更に関して都市の治安維持と風紀の監視を受けもった十人委員会 *Consiglio dei Dieci*¹⁷ で監督される例が多く見られる。この十人委員会の議事録における劇場に関する記述は1879年にG.スフォルツァによってまとめられ¹⁸、現在でもヴェネツィア劇場研究の基盤のひとつとなっている。しかしサン・カッシャーノ地区の劇場に関しては、各年毎にカーニバル期間の上演許可が議題にあがっているにすぎず、劇場の様態に関わる詳細な情報を得ることはできない。また、通常これらの議事録には具体的な発言等は記されず、そこから劇場の様態を特定していくことは極めて困難である。

以上の経緯から本研究は、2つの劇場建設にミキエル家、トロン家という貴族が関わっていたことに着目し、より個人的な内容が記される書簡や公証人の元で作成された手稿等を主たる原史料として用い、その様態を明らかにしようとするものである¹⁹。

2 劇場の存続期間

テアトロ・ミキエルについて最初に登場する史料は、1581年2月2日²⁰、ヴェネツィアの公証人フランチェスコ・モンドのもとで作成された文書である²¹。そこではジェロージ劇団の4人の役者²²シモーネ・コドウツ²³、オラツィオ・デッラ・トルレ²⁴、ジュリオ・パスクワーティ²⁵、アドリアーノ・ヴァレリーニ²⁶がアルヴィーゼ・ミキエルとその兄弟に対し、同年末に始まるカーニバルの期間に喜劇を上演するための場所を建設することを求めている。一方テアトロ・トロンについては、劇場建設以前に記された文書は現存しない²⁷。しかし、エットーレ・トロンが1582年1月4日の日付でエステ家のアルフォンソ二世に宛てた文書からは、当時既に劇場を所有していたことが分かる²⁸。さらに、1581年9月25日の十人委員会の議事録からは「喜劇を上演する1つ以上の場所」が存在したことが明らかである²⁹。これは、同委員会における喜劇上演の許可をめぐる討議の中で、場所に関する初めての言及である。以上から2つの劇場は1581年に完成、開場したと考えられる。

ヴェネツィアでは1508年12月29日以降、喜劇、悲劇、牧歌劇の上演は十人委員会からの許可を得ることが義務付けられている。な

かでも喜劇には若者を墮落させるような淫らで不真面目な言葉の使用がみられるとして特に厳しく取締りがされていた³⁰。十人委員会において喜劇上演が禁止された期間中、実際には不法に上演した劇団が存在したことは明かだが³¹、テアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンで上演した劇団は、禁止期間中に同委員会の委員長に直接手紙を出し許可を請願していることから、正式な許可を得て上演することを望んでいたと考えられる³²。また不法な上演を避けようとしたことは、ヴェネツィアで上演が禁止された年には他の都市で活動した記録があることから推定できる³³。以上から2つの劇場の上演時期は十人委員会による喜劇上演に関する決議に概ね対応するといえる。

表1に示すように1582年12月17日以前は厳格な条件つきではあるものの喜劇上演が行われていた。1582年から続くカーニバル中の1583年1月には2度にわたり討議されたが、上演許可は与えられていない。翌1584年にはカーニバル中の上演について討議された記録は無いが、1585年2月8日の文書には劇団から上演許可を請う文書が十人委員会に送られたと記されていることから、1584年から1585年にかけてのカーニバル当初は上演が行われていなかったと考える。その後、残りのカーニバル期間中の上演に関して討議されるが多数決による結果は決裂し、2度目の投票が行われた記録があるものの結

表1 十人委員会による喜劇上演に関する決議

史料名	日付	決議の主な内容	決議
Registro.35, c.118v.	1580.12.22	1月1日からカーニバルの期間中、質素、誠実な内容で、午前4時までには終えるという条件で喜劇上演を許可する。	可決
Registro.36, c.9r.	1581.9.25	若者のよき習慣を腐敗させるような機会や刺激を取り除くよう常に努めてきた本十人委員会は、1508年12月29日、そのなかに淫らで不真面目な言葉の使用がみられる牧歌劇や喜劇の上演を禁止した。この禁止は長年監視されてきたが、近年は本委員会の3分の2以上の賛成がある場合に限り上演許可が与えられている。この街には喜劇役者の日常の隠れ家となっているだけではなく、破廉恥な喜劇を上演するための場所が1つ以上つくられているのである。この度、ドージェとその6人の補佐官、3名の本委員会の委員長を含む全17人の委員のうち6分の5以上の賛成があった場合、喜劇、牧歌劇の上演許可を与えることとする。しかしもし今後許可なく公共の場所、あるいは私的な場所で喜劇、牧歌劇あるいはこれらに類似するものを上演した場合、足に鉄をつけて18ヶ月間ガレー船を漕ぐことを科し、ガレー船を漕ぐことが不可能なものは3年間投獄される。また上演を支持したのに対しては25ドゥカーティの罰金が科せられる。	可決
Registro.36, cc.178v.-179r.	1582.12.17	無秩序を引き起こした1581年9月25日の決議を、本委員会の権限により無効とする。	可決
Registro.36, c.180v.	1583.1.5	15日間に限り、この街での喜劇上演の許可を与える。ただし午前4時までとし、質素で誠実な内容のものに限る。さらに全てのボックス席は昼間、夜間ともに、全観客が退場するまで開け放たれておくこと。	否決
Registro.36, c.181r.	1583.1.14	15日間に限り、この街での喜劇上演の許可を与える。ただし午前4時までとし、質素で誠実な内容のものであることを条件とする。さらに15日間の上演期間中、全ボックス席は後方を鎖を掛けて開け放ち、通る人がボックス席の中を見ることができるようしておくこと。	否決
Filza.158	1585.2.8	本委員会は、牧歌劇、悲劇、誠実な内容の喜劇をある程度の誠実な条件のもと上演する許可を得たいとするジェロージ劇団の役者からの手紙を受けて、残りのカーニバルの期間中、あらゆる質素さ、誠実さに基づいて上演をする許可を同劇団に与える。これは午前3時までには上演を終え、ボックス席は全観客が退場するまで開け放たれておくことという条件によるものとする。	保留
Registro.38, c.81v.	1586.1.14	本カーニバル中午前4時までには限り、喜劇上演のための場所、あらゆる質素さ、誠実さをもった喜劇の上演をすることをアンドレア・トロンの息子に許可する。ただしボックス席はカーニバルの全期間中、上演開始前からすべての観客が退場するまで後方を開け放ち、中を見ることができるようしておくこと。また節度ある役者によって上演されること。	否決
Registro.38, cc.81v.-82r.	1586.1.14	本委員会の委員長はアンドレア・トロンの息子エッティレあるいはその代理人または仲介人とミキエルの息子アルヴィーゼ兄弟あるいはその代理人または仲介人に対し、15日間に以内に全ボックス席、舞台背景やその他喜劇上演するためにつくられた場所にある全てのものを痕跡残さず撤去することを言い渡す。15日間をすぎても前述の者がこれに従わない場合、本委員会の委員長は即全ボックス席、舞台背景・装置、そのほか喜劇上演に関連する全てのものを取り除き、解体を指示する。木材など全ての材料は、解体に従事した者の所有となる。	可決

果は不明である。しかし 1585 年にアルヴィーゼ・トロンが同委員会に送った文書には、劇場では建設後の数年間上演が行われた後、すぐに禁止令が出されたと記されている³⁴。以上から 1584 年から 1585 年にかけてのカーニバルでは上演が行われなかったことがわかる。

1586 年 1 月 14 日には再度上演許可が否決されている。さらに同日の日付けで十人委員会の委員長から、アルヴィーゼ・ミキエル兄弟とアルヴィーゼ・トロン兄弟に対し、15 日以内に劇場を解体するよう言い渡されている³⁵。

以上から、2 つの劇場は常設の劇場として 1581 年に建設され、1586 年に解体が指示されるまで 4 年以上の間存続したが、実際に上演が行われたのは 1582 年 12 月 17 日までの期間のみであったと考える。

3 劇場の所有者

テアトロ・ミキエルは、1582 年 3 月に作成された十分の一税申告書 *Condizioni di Decima* から、ドルソドゥーロ区のサン・バジーリオに住むアルヴィーゼ・ミキエル兄弟の所有であったことが明らかになっている³⁶。この申告書は、アルヴィーゼと 2 人以上の兄弟の連名で作成されているが³⁷、それが兄弟のうち誰を指すのかは現在まで明らかにされてこなかった。1614 年の日付があるジョヴァンニ・バッティスタ・ミキエルの遺言書³⁸には、サン・カッシャーノ地区にかつて劇場として使用されていた倉庫を所有し、これを弟アゴスティーノに譲ることが記されている。またアルヴィーゼ・ミキエルも 1616 年に作成した遺言書³⁹の中で同様の倉庫をアゴスティーノに譲ると記している。アルヴィーゼ、ジョヴァンニ・バッティスタ共に財産の多くを妹のチェチリアと、異母弟であるピエロ⁴⁰に遺している一方でサン・カッシャーノ地区の倉庫に限りアゴスティーノに譲っていることから、劇場は 6 人の男兄弟の中でアルヴィーゼとジョヴァンニ・バッティスタ、アゴスティーノの 3 人で所有していたと考えられる。

一方テアトロ・トロンに関しては、サン・マルコ区のサン・ベネデットに住むアンドレア・トロン、エットーレ・トロンによる 1582 年の十分の一税申告の中に「サン・カッシャーノ地区に所有する現在はいまだ収入を得ていない喜劇を上演する場所」に関する項目が認められる⁴¹。その後アンドレアの死去から間もない 1586 年には、当時 10 歳だった息子アルヴィーゼの名で十人委員会に劇場での上演を許可するように求めた文書が存在する⁴²。さらに、同委員会から通達

された劇場解体の指示も同じくアルヴィーゼとその兄弟に対して出されていることから⁴³、アンドレアの死後、劇場は兄弟や近親ではなくまだ幼かった息子が相続したと考えられる。

以上のことから、この 2 つの劇場は複数の貴族による共同出資で運営されたのではなく、ミキエル家、トロン家⁴⁴という単独貴族によるもので、その中でも極めて近い少数の人物によって所有、運営されたことが確認できる。

4 上演の主体と目的

テアトロ・ミキエルではジェロージ劇団⁴⁵、テアトロ・トロンではコンフィデンティ劇団⁴⁶が雇われたことは、関連する先行研究においても言及されている⁴⁷。特にコメディ・デッラルテ⁴⁸の上演で人気があったこの 2 つの劇団は、両劇団の間で団員の移動が頻繁にみられ、1583 年には一部が合併してウニーティ劇団として活動している。また、共に他都市の貴族や有力者が催す祝祭や宴席に頻繁に招かれ、1574 年にフランスのアンリ三世がヴェネツィアを訪問した際には、ジェロージ劇団による上演が行われたことが知られている。アンリ三世自らの要望でミラノから呼ばれた劇団は、カ・ジュスティニアン、カ・フォスカリ、パラッツォ・ドゥッカルー内の大評議員の間において政府が組織した晩餐会や祝賀会で、牧歌劇や喜劇、悲劇の上演をおこなった⁴⁹。一方公証人モンドのもとで作成された文書からは、テアトロ・ミキエルの建設にあたりジェロージ劇団の役者の側が劇場を建設・所有したアルヴィーゼ・ミキエル兄弟に対し多くの注文を出したことがわかる。その内容は、全てアルヴィーゼ・ミキエル兄弟の資金によって「喜劇を上演する専用の場所」が建設され、そこには舞台背景と有料で賃貸する 200 個のボックス席がつくられること、そのボックス席のうちひとつは画家ヤコボ・ティントレットに、もうひとつは建築家フランチェスコ・ザンベルランに無償で貸すこと、劇場には役者のための住宅 4 件を併設させること等である。またその引き換えとしてアルヴィーゼ・ミキエル兄弟は 2 つのボックス席を無償で使用でき、さらにジェロージ劇団は今後ヴェネツィアにおいてテアトロ・ミキエル以外では上演しないと記されている。劇場が実際どのような形態で実現したのかを詳細に伝える史料は見つからないため、役者による要求がどの程度実現したのかは不明である。しかし、この劇場には有料で貴族に賃貸するボックス席が多数あり役者のための住宅が併設されるなど⁵⁰、いくつかの要求が実現した事実が建設後に記された複数の記述から明らかである⁵¹。

また同文書の中には、アルヴィーゼ・ミキエル兄弟が毎晩の興行収入の 12 分の 1 あるいは 13 分の 1 とそれに加えてボックス席の賃貸によって得る収益の半分を得ることができるとしている。上演による残りの収益を誰が得たのか明記されていないが、劇団あるいは役者個人が得た可能性が十分考えられる。

フランチェスコ・モンドによるこの文書を含め、劇場建設当初に記された史料から 2 つの劇場は喜劇上演を目的として建設されたことが明らかである⁵²。しかし、十人委員会により度重ねて上演が禁止された後の 1585 年、ジェロージ劇団は同委員会に直接文書を送り、牧歌劇、悲劇と非常に真面目な喜劇に限ると約束したうえで上演許可を強く求めている⁵³。これは役者らが当時特に厳しく監視されていた喜劇上演の代わり、十人委員会にとり比較的受け入れやすかった牧歌劇や悲劇という譲歩策を提案したと考えることができる。以上

図 1 ミキエル家系図

図 2 トロン家系図

図 1、図 2 の は劇場の建設と運営に関わったと考えられる人物

からジェロージ劇団にとって自ら建設を主導したテアトロ・ミキエルには、演目を変えてまで上演する何らかの魅力があり、それがボックス席の賃貸と興行から得る収入だった可能性が考えられる。

また、エットーレ・トロンがコンフィデンティ劇団の人気役者ペドロニーノを迎え入れたいとしたエステ家のアルフォンソ二世に送った手紙には、貴族らから手付金として約1000 ドゥカーティを得て上演を行っていることが記され、ペドロニーノを引き抜くことによって劇団を解体させ、テアトロ・トロンでの上演を妨げないようお願いしている⁵⁴。さらに、十人委員会によって2つの劇場の閉鎖と取り壊しが通告された1586年にアルヴィーゼ・トロンがドージェとその顧問に宛てた書簡にはトロン家が極めて困窮していると繰り返し書かれ、劇場再開場の許可を求めている⁵⁵。以上のことから劇場の興行によって得る収入が、貴族にとっても重要であった可能性が考えられる⁵⁶。

5 まとめ

本稿ではヴェネツィアのサン・カッシャーノ地区に建設されたテアトロ・ミキエルとテアトロ・トロンについて、劇場を所有した貴族と役者に着目し、先行研究で使用されてきた史料の再精査をおこなった。さらに公証人文書、書簡等より個人的な内容が記される原史料を長期にわたりヴェネツィア国立古文書館で渉猟し、建設と上演の様相を検証した。本稿が明らかにしたのは以下の点である。

- 1) 2つの劇場は1581年に常設の劇場として建設された。しかし役者によって書かれた喜劇上演の許可を嘆願する内容の手紙や、十人委員会の議事録に記されているたび重なる喜劇上演の不許可から、劇場が閉鎖する1586年までの間で実際に上演が行われたのは、開場から1582年12月17日までであったと考えられる。
- 2) 2つの劇場はそれぞれミキエル家、トロン家といった単独の貴族によって建設・運営された私設劇場であり、貴族と役者が有料上演によって収入を得ることをひとつの目的とした劇場であった。
- 3) テアトロ・ミキエルの建設・運営に関してジェロージ劇団が強い発言権を持っており、興行収入の大半は劇場建設に出資したミキエル家ではなく、ジェロージ劇団あるいは役者個人に分配された可能性がある。また、ジェロージ劇団と緊密なつながりがあるコンフィデンティ劇団によって上演が行われたテアトロ・トロンにおいても類似する状況にあったと考えられる。

以上から、ヴェネツィアで建設された2つの劇場は政府の庇護を得ない貴族と役者による、興行収入を得ることをひとつの目的とした劇場であり、君主や為政者個人の娯楽や祝祭を豪華に演出するために建設された同時期における他都市の劇場とは目的が異なることが明らかになる。当時すでにトスカナ大公国という領域国家の首都となっていたフィレンツェのように祝祭や演劇が君主の権力を誇示する政治的な役割を持つ場合、その空間は一流の建築家を雇い、豪華な舞台として演出されることが多かった。しかしヴェネツィアのように劇場が興行主による公共施設として有料上演を行う場合は、必然として経済効果が重要視されることになる。後の17・18世紀に各地で建設されたオペラ劇場はその結果としての現象である。

16世紀後半、いまだ共和制を維持し君主等の特定の人物に権力が集中することのなかったヴェネツィアだからこそ劇場は政治的目的のみと強く結びつくのではなく、娯楽のための場であり、また興行収入を得ることをひとつの目的とした劇場が誕生したのではないか

と考える。またヴェネツィアでは、既に16世紀前半から仮設劇場において有料上演が行われていることから⁵⁷、有料上演という対象は地中海貿易から本土における土地所有への資本の移行⁵⁸、毛織物、印刷物、奢侈品をはじめとする手工業の隆盛等、経済構造が大きく転換した16世紀ヴェネツィアにおいて貴族が期待した新たな収入のひとつであった可能性が考えられる⁵⁹。すなわち、このようなヴェネツィア固有の社会的特質の中で誕生したサン・カッシャーノ地区の2つの劇場の建設は、劇場が有力貴族や君主による政治的プロパガンダと結びつくことなく、貴族や上層市民のための娯楽の場を提供することで収入を得ようとする17世紀に向けた過渡的状況を示しているのである。

注

- 1) 特に1580年代は顕著で、ヴィチエンツァのテアトロ・オリンピコ、フィレンツェのウフィッツィ内の劇場、サッピオネータの劇場等が完成した。その他16世紀イタリアにおける劇場の誕生については以下を参照。Attolini, F., *Teatro e spettacolo nel Rinascimento*, Bari, 1988.; *Il teatro italiano del Cinquecento*, a cura di Magagnato, L., Mantova, 1980.
- 2) 建築家ヤコポ・サンソヴィーノの息子。フランチェスコ・サンソヴィーノについては以下を参照。Bonora, E., *Ricerche su Francesco Sansovino: imprenditore librario e letterato*, Venezia, 1994.
- 3) Sansovino, F., *Venetia città nobilissima et singolare*, Venezia, 1581, cc.75r.-v., 以下拙訳「この教会（サン・カッシャーノ教会）からわずかに離れたところに、巨額を投じて建設された実に美しい2つの劇場がある。そのうち一方は楕円形もう一方は円形をし、大人数を収容できる。」
- 4) サン・カッシャーノ地区の2つの劇場以外のヴェネツィアの劇場としてはテアトロ・ディ・サン・モイゼ(1613年)、テアトロ・ヴェンドラミン(1622年)がある。当時の記述等から、サン・カッシャーノ地区の劇場と同時期にヴェネツィアに建設された劇場は存在しなかったと考えられる。
- 5) Venturi, L., *Le compagnie della calza (sec.XV-XVI)*, Nuovo Archivio Veneto, vol.XVIII(1908), pp.161-221.; vol.XIX(1909), pp.140-231.
- 6) Padoan Urban, L., *Teatri e "Teatro del Mondo" nella Venezia del cinquecenteschi*, Arte Veneta, 1966, pp.137-146.
- 7) Padoan Urban, L., *Le Compagnie della Calza: edonismo e cultura al servizio della politica*, Quaderni Veneti, 6 dicembre, 1987, pp.111-127
- 8) Muraro, M.T., *La festa a Venezia e le sue manifestazioni rappresentative: le compagnie della calza e le momarie*, Storia della Cultura Veneta vol.3/III, Vicenza 1981, pp.315-341.
- 9) その他、16世紀ヴェネツィアの演劇・祝祭に関しては以下の文献にも言及が多い。Guarino, R., *Teatro e mutamenti: rinascimento e spettacolo a Venezia*, Bologna, 1995.; Padoan, G., *La commedia rinascimentale veneta*, Vicenza, 1982.; Tamassia Mazzarotto, B., *Le feste veneziane: i giochi popolari, le cerimonie religiose e di governo*, Firenze, 1961.
- 10) Giazotto, R., *La guerra dei palchi*, Nuova Rivista Musicale Italiana, II(1967), pp.245-286.; III(1967), pp.465-508.; IV(1969), pp.906-933.
- 11) *I teatri pubblici di Venezia: secoli 17-18*, a cura di Zorzi, L., Venezia, 1971.
- 12) Mangini, N., *I Teatri di Venezia*, Venezia, 1974.
- 13) Mancini, F., et al., *I Teatri di Venezia*, tomo I, Venezia, 1996
- 14) Johnson, E.J., *The short, lascivious lives of two venetian theaters: 1580-1585*, Renaissance Quarterly, vol.LV(2002), pp.936-968.
- 15) Archivio di Stato di Venezia(以下ASVe), Giudici del Piovego, b.86. 1762年から1763年に建築家F. ボニョーロによって作成された敷地の実測図、計画案、実施案等の史料。Mancini, F., et al., *op.cit.*, pp.105-114.を参照。
- 16) 筆者は1579年9月5日から1586年8月30日までの元老院の議事録 Senato Terra, Registroを調査した。
- 17) 1310年に起こったクイリーニ・ディエポロの反乱をきっかけに都市の氾濫や陰謀事件を防ぐ目的と犯罪の事後処理のために設立された機関。16世紀には財政、商業、都市の風紀に至る幅広い事柄の取り締まりを担った。
- 18) Sforza, G., *F.M.Florentini ed i suoi contemporanei lucchesi*, Firenze, 1879, pp.793-806.
- 19) 16世紀の建築物的特徴を知るために有益な史料として道路・運河など公共工事を管理した都市諸施設監督官 *Provveditori di Comune*、公共審査官 *Giudici del Piovego*, などが知られているが、この劇場が存在した期間は史料が大きく欠落し、現存している史料にも記述は残されていない。また筆者は4人の委員を中心に建設とその後訴訟を扱う *Quattro Ministeriali* と呼ばれる機関の1579年から1587年までの記録を調査したが、ここにも2つの劇場に関する件は見られなかった。
- 20) 当時のヴェネツィアの暦では3月1日から2月28日までを1年とするが、

本稿では便宜上すべての日付を現在の暦に置き換えた。

- 21) ASVe. *Notarile Atti*, b.8317, cc.106v.-107v.,
- 22) この4人のうちバスクワーティを除く3人は、許可なくベルガモにて上演したとの理由でテアトロ・ミキエル建設直前にマントヴァとその領土内から追放されている。Lea, K.M., *Italian popular comedy: a study in the commedia dell'arte, 1560-1620, with special reference to the English stage*, vol.I, Oxford, 1932, p.234.
- 23) ボローニャ出身の役者で、アルレッキーノを演じた。Bartoli, F., *Notizie storiche de' comici italiani che fiorirono intorno all'anno 1500 fino a giorni presenti, opera ricercata, raccolta, ed estesa da Francesco Bartoli*, Padova, 1782, p.240.
- 24) パドヴァ出身。ジェロージ劇団のインナモラート役として重要な役者。オラツィオ・ノービリとも名乗っていた。Enciclopedia dello spettacolo, vol.II, fondata da Silvio D'Amico, Roma, 1975, pp.1191-1192.
- 25) パドヴァ出身で、アドリアーノ・ヴァレリーニと共にジェロージ劇団で活動した役者。パンタローネを演じた。Rasi, L., *I comici italiani*, vol.II, Firenze, 1899, pp.226-235.; Bartoli, F., *op.cit.*, p.80.
- 26) ヴェローナ出身。フランチェスコ・アンドレイーニと共にジェロージ劇団に参加。1571年以降数度にわたりフランスでの上演に加わった。また1583年にはコンフィデンティ劇団を合併して、ウニーティ劇団の結成を牽引した。Enciclopedia dello spettacolo, vol.IX, fondata da Silvio D'Amico, Roma, 1975, p.1401.; Bartoli, F., *op.cit.*, pp.259-261.; Rasi, L., *op.cit.*, vol.II, pp.616-622.
- 27) 筆者は1579年から1581年にかけてヴェネツィアで登録されていた公証人102人による文書、計146箱をヴェネツィア国立古文書館において調査したが、テアトロ・トロン建設以前に関わる文書は見つからなかった。
- 28) Archivio di Stato di Modena, Archivio per Materiali, Drammatica, Minute di Lettere a comici, busta unica., この史料については以下を参照。Solerti, A., Lanza, D., *Il teatro ferrarese nella seconda metà del Secolo XVI*, Giornale Storico della Letteratura Italiana, vol.XVIII(1891), Torino, pp.148-185.; Mancini, F., et al., *op.cit.*, pp.98-99.
- 29) ASVe, Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, r.36, c.9r.; Sforza, G., *op.cit.*, pp.798-799.
- 30) ASVe, Consiglio dei Dieci, Misti, r.32, c.55v.; Bistort, G., *Il magistrato alle pompe nella repubblica di Venezia, miscellanea di storia veneta, serie terza*, tomo V, Venezia, 1912, p.225-231.
- 31) 上演が禁止された期間の公証人文書にも許可を得ずに上演を行った劇団に関する史料が複数残っている。
- 32) ASVe, Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, Filza, b.158. 以下要約「他の劇団が不法に上演した一方、私たちは許可なく上演を敢行することはなかった。不道德な問題が生じないよう、牧歌劇、悲劇、その他非常に真面目な喜劇だけを上演することを誓い、カーニバル期間中の上演が許可されるよう懇願する。」Johnson, E.J., *op.cit.*, p.950.
- 33) 劇団の巡業地については以下を参照。Winifred, S., *The commedia dell'arte*, New York, 1964.; Taviani, F., *Il segreto della commedia dell'arte: la memoria delle compagnie italiane*, Firenze, 1982.
- 34) ASVe., Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, Filza, b.161.; Johnson, E.J., *op.cit.*, pp.952-954.
- 35) ASVe. Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, r.37, c.81v.; N.マンジーニは2つの劇場では開場直後散発的な上演がおこなわれたに過ぎないとしている。また開場年についてはテアトロ・ミキエルを16世紀末、テアトロ・トロンに関しては具体的に言及していない。F.マンチーニらはテアトロ・ミキエルの開場年を1583年以降、テアトロ・トロンについては開場後は1607年まで記録がみられないとしている。一方でE.J.ジョンソンは十人委員会による劇場解体の通達をもとに1586年に閉鎖された可能性を指摘した。Johnson, E.J., *op.cit.*, p.954.
- 36) 劇場と役者用の住宅を申告している。ASVe., Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima, Dorsoduro, b.172, fasc.1376.; Mangini, N., *op.cit.*, p.22.
- 37) Ibid., 複数の兄弟をあらわす *fratelli* と記されていることから、アルヴィーゼを含めた3人以上の連名であることがわかる。
- 38) ASVe., *Notarile, Testamenti*, b.1244, fasc.439.
- 39) ASVe., *Notarile, Testamenti*, b.347, fasc.7.
- 40) おそらく財産の多くがビエロに相続されたのは、ミキエル家の中で息子がいたのはビエロのみであったからと考えられる。
- 41) ASVe., Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima, b.158, fasc.905.; Mangini, N., *op.cit.*, p.24.
- 42) E.J.ジョンソンはアルヴィーゼ・トロンがまだ幼かったことを指摘し、叔父のエットーレが代筆した可能性を示している。Johnson, E.J., *op.cit.*, pp.952-953.
- 43) 兄弟のうち誰を指すのかは不明だが、1607年にテアトロ・トロンが再開場した際にはその運営に、エットーレ、フランチェスコが関わっていることから、アルヴィーゼを含む3人であったと考えられる。
- 44) ミキエル家とトロン家に関し、F.マンチーニとE.J.ジョンソンはドージェを輩出した有力家系であったとしている。しかし1470年代にドージェを出したトロン家とサン・ベネデットのトロン家、12世紀までに複数のドージェを輩出したミキエル家とサン・バジリーオのミキエル家は同姓である以外の関係は認められない。また2つの劇場の建設に関わったと考えられる人物の中に政府の要職に就いたものは確認できない。同姓を有するヴェネツィア貴族とその結束に関しては、Crouzet Pavan, É., *Venezia trionfante: gli orizzonti di un mito*, Torino, 2001, pp.265-267.; 高田京子『都市国家ヴェネツィアにおける貴族の親族集団』史林 75(2), 1992, pp.145-183.
- 45) 特定の貴族に属さなかったが国家君主たちから援助を受けていた。また海外に巡業したことも知られている。この劇団は「美德・名声・名誉」をモットーに喜劇、悲喜劇、悲劇、インテルメッツォ、牧歌劇など即興劇から台本のある作品まであらゆる種類の演劇を上演した。ジェロージ劇団については以下を参照。Ughi, S., *Di Adriano Valerini, di Silvia Roncagli e dei comici gelosi*, Biblioteca Teatrale, III(1973), pp.147-154.; Marchi, G.P., *L'esperienza teatrale di Adriano Valerini, La commedia dell'arte tra cinque e seicento in Francia e in Europa*, Atti del Convegno Internazionale di Studio, Fasaro, 1997, pp.173-180.; Lea, K.M. *op.cit.*
- 46) 北イタリアの主要な町を中心に活動とした。なかでも1570年代後半から80年代にかけてはマントヴァと関係が深く、サン・カッシャーノの劇場が開場した直後にはゴンザーガ家の専属の劇団となったことが知られている。Lea, K.M., *ibid.*; Richards, K., *ibid.*, pp.64-65.
- 47) D'Ancona, A., *L'origine del teatro italiano*, vol.II, Torino, 1891, p.484.; Solerti, A., et al., *op.cit.*; Mangini, N., *op.cit.*, pp.23-25.
- 48) 旅回りをする劇団による即興性を重視した喜劇。以下を参照。Apollonio, M., *Storia della commedia dell'arte*, Milano, 1930.; Ferrone, S. *Attori mercanti corsari, la commedia dell'arte in Europa tra cinque e seicento*, Torino 1993.; Povoledo, E., *I comici professionisti e la commedia dell'arte, caratteri, tecniche, fortuna*, in *Storia della Cultura Veneta*, vol.4/I, Vicenza, 1983
- 49) 劇団の招致と上演については以下を参照。ASVe, *Secreta, Materie Miste Notabili*, Filza, b.37.; Nolhac, P., Solerti, A., *Il viaggio in Italia di Enrico III, re di Francia, e le feste a Venezia, Ferrara, Mantova e Torino*, Torino 1890.
- 50) ASVe., Dieci Savi alle Decime in Rialto, Condizioni di Decima, b.158, fasc.905.
- 51) Biblioteca Nazionale Marciana, Ms. Marc., it., VII, 335 (8232), c.38 v.; Mancini, F., et al., *op.cit.*; Solerti, A., et al., *op.cit.*
- 52) 通常十人委員会の議事録、十分の一税報告書等では劇場という言葉を使用せずに「喜劇上演のための場所」と表現されている。
- 53) ASVe., Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, Filza, b.158
- 54) ASMo., Archivio per Materiali, Drammatica, Minute di Lettere a Comici, busta unica.; Solerti, A., Lanza, D., *op.cit.*, pp.148-185.; Mancini, F., et al., *op.cit.*, pp.98-99.
- 55) ASVe., Consiglio dei Dieci, Parti Comuni, Filza, b.161.; 以下要約「大家族であるトロン家の兄弟は、先の激しい戦争により困窮した極めて惨めかつ不幸な一家であるということをここに申し上げます。私達の祖先は共和国に対する多大なる信用と信仰に基づき、一家にとって可能な限りの力を結集し膨大な資金をかけ喜劇上演のための場所をつくりましたが、その後もなく都市諸施設監督官とコレージュに支払う経費の増大等により多額の借金を負うことになりました。さらに喜劇には淫らで不真面目な言葉の使用がみられ、秩序を乱すとして、惨めで貧しい私達は劇場での上演を禁止されるに至りました。これは上演中には常にボックス席の後部を開放し、役者らが最大の誠実さと質素さを持ち、極めて分別のある喜劇、牧歌劇、悲劇を上演し、いかなる騒ぎも中傷も起こらないよう厳しく監視することで防げることで、喜劇は街中で望まれている娯楽でありましょう。ローマやボローニャにおいて喜劇が上演されているのに、なぜ貧しく不幸な私達には認められないのでしょうか。カーニバルの期間中、劇場での喜劇上演を許可いただけますようお願い申し上げます。」
- 56) 2つの劇場が貴族を対象とし、高額な入場料を徴収していたこと等から慈善、慰安事業として建設された可能性は低いと考える。劇場建設と上演の目的としてミキエル家、トロン家による社交の目的があった可能性は考えられる。これに関し筆者はミキエル家、トロン家のコンパニアー・デッラ・カルツァへの参加、その会員との関与、婚姻、政治活動、スクオーラ・グランデへの参加等について調査したが、明確に裏付けするような史料は見つからなかった。
- 57) 有料上演については以下を参照。Ferrone, S., *op.cit.*, Torino, 1993, pp.53-55.; Padoan, G., *op.cit.*, pp.33-37.; Mancini, F., et al., *op.cit.*, pp.15-17.
- 58) Pullan, B., *Occupation and investments of the venetian nobility*, ed. Hale, J.R., Renaissance Venice, London, 1973, pp.379-408.; 和栗珠里『土地所有とヴェネツィア富裕階級のメンタリティーの変化』文化史学 45号, 1989年, pp.153-172
- 59) 16世紀ヴェネツィア商業への打撃と回復、産業基盤の変化については Lane, F.C. *Venice: a maritime republic*, Baltimore and London, 1973, *op.cit.*, p.310-312.; 藤内哲也『近世ヴェネツィアの権力と社会』昭和堂, 2005年, pp.3-14.; を参照。

(2006年12月10日原稿受理, 2007年3月5日採用決定)